

編集後記

新型コロナウイルスによる肺炎の影響で「東京オリンピックが中止される」という情報がツイッター上で拡散した。新型肺炎をめぐる IOC と WHO の協議の報道がそのように捻じ曲げられてツイッターをはじめとした SNS 上で広まったとされる(毎日新聞 1 月 30 日付)。「関西国際空港に出国した感染疑いのある観光客が病院から逃げた」といった全くのフェイクニュースもネット上で駆け巡ったといわれる。1 月中の 4 週間で新型肺炎に関して世界で 1500 万件以上のツイートがあり、ヘイトやフェイクまがいの情報の拡散が懸念される。

新型肺炎の広まりという危機に直面して、ビッグデータ時代の明暗を改めて痛感させられる。韓国のある政治学者(任嬭伯)によれば、ビッグデータによる膨大で多様な情報の解析が、韓国の「ろうそくデモ」のような、脱中心のマルチチュードによる直接的な政治参加を可能にした、という。だが、このビッグデータが国家権力に独占されれば高度の監視社会を生み、氾濫する情報への民主的な管理を欠けばヘイトやフェイクの乱れ飛ぶ情報アナーキーとなる。いまの日本は後者に近いのではないだろうか。いずれにしても社会科学が取り組むべきほとんど未知の課題がそこに示されている。

上原論文は沖縄金武湾闘争を論じながら、新自由主義時代に特有の不安定就労層を示す「プレカariat」という概念を手掛かりに、沖縄そして琉球弧の島々での抵抗主体形成の可能性を探った論考である。後藤論文は 2019 年 4 月に制定されたキューバ新憲法成立の背景と意義を論じている。キューバ社会主義の議論にとどまらず、ポスト冷戦期の新自由主義が風靡する世界でいったい「社会主義」とは何か、を考えさせられる論考であるといえる。岡野内論潮は、「ろうそく革命」に象徴されるような韓国社会運動の高揚の中から生まれたベーシックインカム の京畿道における実践に注目し、現地調査を通じてその内容と意義を明らかにしている。今号のいずれの論考も、現代世界の「変革主体」、「社会主義」、さらには「システム転換」といった、本誌ならではのラディカルな問題提起となっている。

(2020/1/25 文 京洙)

アジア・アフリカ研究

2020 年 第 60 巻 第 1 号 (通巻 435 号)

2020 年 1 月 25 日発行 機関購読料：年間 15,000 円

編集・発行人 文 京 洙

発行所 特定非営利活動法人
アジア・アフリカ研究所

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 2-17-10

Tel&Fax: 03 (5972) 4740

E-mail: aaken@bz01.plala.or.jp

URL: <http://www.aaij.or.jp/>

印刷所 三和印刷(株)
長野県長野市川中島町 1822-1

本誌上で各論考の著者がその責任において述べた意見は、特定非営利活動法人 (NPO 法人) アジア・アフリカ研究所としての見解を表すものではありません。

The articles in *Quarterly Bulletin of Third World Studies* do not represent the views of The NPO Corporation Afro-Asian Institute of Japan (AAIJ). Responsibility for opinions expressed in them rests with their authors.